

EQ カーブ対応トーンコントロールの調整(13)(HP 収載)

—Marantz7 による調整(2)—

1. 始めに

前報(12)の結果から、Marantz7 によるトーンコントロールの調整の効果が見えてきましたので、さらにイコライザーカーブ毎に詳細を詰めていきます。

2. トーンコントロールの調整方法

次の再生経路を設定します。

再生経路 1

LINN LP-12→ZANDEN Model 120 (EQ 可変) →Brooklyn DAC+

*ZANDEN Model 120 の EQ カーブの最適条件で再生する。

再生経路 2

LINN LP-12→ZANDEN Model 120 (RIAA 固定) →Marantz7 (ライン入力)

→Brooklyn DAC+

*ZANDEN Model 120 は RIAA に固定し、Marantz7 のトーンコントロールの調整を行い、要時 Brooklyn DAC+で位相反転を加える。

再生経路 3

Thorens TD124→My Sonic STAGE 1030→Marantz7 (フォノ入力) →

Brooklyn DAC+

*Marantz7 は RIAA でトーンコントロールの調整を行い、要時 Brooklyn DAC+で位相反転を加える。

音源は EQ カーブの異なるアナログ盤を準備します。今回は RIAA カーブと思われる次の盤を選択します。

ドイツグラモフォン 4864177

イザイ 無伴奏ヴァイオリンソナタ

ヒラリー・ハーン

PHILIPS 802 711/2 AY

マーラー 交響曲 3 番

ハイティンク指揮コンサートヘボウ

3. トーンコントロールの調整結果

今回は、イコライザーカーブが RIAA の盤を RIAA で再生しましたので Marantz7 のトーンコントロールを調整することが不要で、Brooklyn DAC+での位相反転も不用で

す。

再生経路 1 では、イザイの無伴奏ヴァイオリンソナタは、RIAA、N、第 4 時定数 High で再生しましたが、前報(12)でも試聴したとおり、鮮烈でリアルなボウイングが聴けます。

マーラーの交響曲 3 番は、RIAA、N、第 4 時定数 Mid で再生しましたが、伸び伸びとおおらかでありながら、解像度も十分です。

再生経路 2 では、イザイの無伴奏ヴァイオリンソナタは、RIAA、N、第 4 時定数 High で再生し、Marantz7 のトーンコントロールはフラット、Brooklyn DAC+での位相反転もなしで、音が若干太目になり、胴鳴りや間接音が豊かになります。

マーラーの交響曲 3 番は、RIAA、N、第 4 時定数 Mid で再生し、Marantz7 のトーンコントロールはフラット、Brooklyn DAC+での位相反転もなしで、解像度の劣化は感じられず、適度な響きと厚みが感じられます。

再生経路 3 では、イザイの無伴奏ヴァイオリンソナタは、RIAA で再生し、Marantz7 のトーンコントロールはフラット、Brooklyn DAC+での位相反転もなしで、さらに音が太目になり、ヒラリー・ハーンのヴィヨームがガルネリのような厚みを帯びてきます。

マーラーの交響曲 3 番は、RIAA で再生し、Marantz7 のトーンコントロールはフラット、Brooklyn DAC+での位相反転もなしで、再生経路 2 よりさらに厚みがまし、押出が向上します。

以上、要約すると、ZANDEN Model 120 では、すっきりと切れの良い音ですが、

Marantz7 のラインアンプが介在すると、心地よい響きが乗って厚みが増し、

Marantz7 のフォノステージの再生では、さらに厚みが増し、押出がでできます。

このあたりの音質の違いは、再生経路 1 と再生経路 2 ではカートリッジが My Sonic Signature Gold で、再生経路 3 は Ortofon Royal ですので、カートリッジ込みでの印象になります。

4. まとめ

今回は、イコライザーカーブが RIAA の盤を RIAA で再生しましたので Marantz7 のトーンコントロールを調整することは不要で、再生経路毎の音質の違いを把握できました。Marantz7 のラインアンプとフォノステージは、それぞれ真空管らしい響きを出し、古さを感じさせることはありません。

以上